



徳山大学 校友会誌

第12号

平成2年12月20日

発行所 徳山大学校友会
〒745 山口県徳山市久米
徳山大学内
TEL 0834 (28) 0411 (代)
発行責任者 豊岡正行
編集発行人 中村道陽

徳山大学創立二十周年

記念式典挙行される

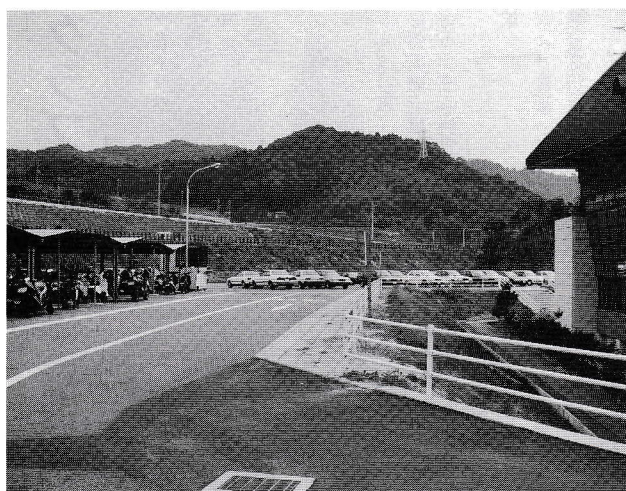
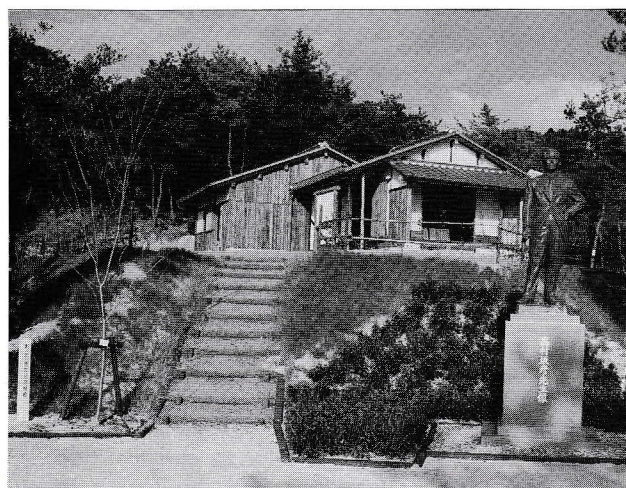
平成二年十月二十日、徳山大学記念館において徳山大学創立二十周年記念式典が挙行された。来賓として、学校法人中央学院理事長、学長をはじめとして、各界から多数の出席者を迎え盛大に執り行われた。

今回記念事業として、創設者高村坂彦先生銅像建立（十月五日除幕）、吉田松陰の主宰した松下村塾の建物の模築（十月五日除幕）、学校裏の沼周辺の遊歩道整備、小説家の澤地久枝の講演会（十月二十一日徳山市文化会館）七月には

日米親善レスリング大会など行われた。

校友会からは大学の正門脇に、建学の精神の碑を建立し、十月二十一日には校友会会長、副会長等によって除幕された。

また、二十周年を契機として、記念館裏に学生仮駐車場（自動車用約二百五十台収容）の設置、カレッジからユニバーシティとしての第一歩として新学部構想も着々と進んでいるようであり、ますますの発展が期待されるところである。



第二十一回明治神宮野球大会

野球部大健闘す!!

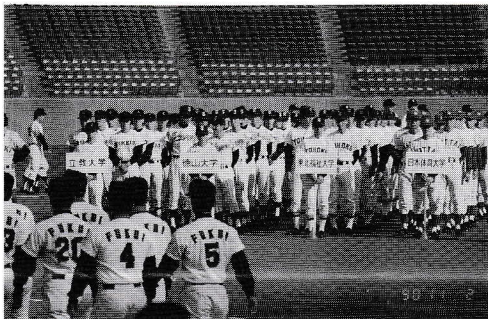
第二十一回明治神宮野球大会は十一月二日、大学各リーグの覇者十校が参加して神宮球場で開幕、熱戦が繰り広げられた。

準々決勝から登場の徳山大学（西部地区代表）は、立教大学（東京六大学代表）と対戦した。

前回徳山大学は、西部地区代表決定戦で四国六大学代表の松山大学に惜しくも敗れ、今大会ではその雪辱に燃え中国六大学を制し、西部地区代表決定戦では四国地区代表の高知大学に快勝し神宮大会へと臨んだ。

一方、東京六大学の覇者立教大学も優勝決定戦までもつれ込み、法政大学を振り切り神宮大会へと進んだ。

対戦相手の立教大学は、プロ野球ドラフト上位指名の噂のあった山



口を軸とした走攻守ともにバランスのとれた好チーム。

予想では立教大学優位のなか、徳山大学投手陣が二、三点内におさえ込めるかどうかの一つのカギであった。

試合は快晴のもと、午後二時三十分試合開始。先攻は徳山大学一回の表はあえなく三者凡退。その裏、徳山大学の先発、右腕の川越は制球に苦しみ満塁のピンチをむかえるも、二者連続三振で後続をシャットアウト。

続く二回の表、徳山大学は、四番山下のセンター前ヒットを足がかりに八番河田のライト線のタイムリー二塁打により一点を先取したが、その裏立教大学もすぐさま一点を返した。

五回には、八番河田のライト前

ヒット、九番川越の送りバントを敵野選でノーアウト一塁、二塁。続く一番斎藤が、内野手の意表を突く絶妙のセーフティバントでノーアウト満塁としたあと、二番梶井の犠打でまず一点、さらに三番山中が左中間を抜く二塁打で二点を入れ合計三点を奪い取った。

このあざやかな速攻に立教大学ベンチと場内は、徳山大学強しの空気が流れたが、さすがは東京六大学の王者立教大学はその裏、七番太田、八番古内らの連続二塁打により三点を返し四対四でふたたび振り出しに戻った。

中盤までは徳山大学が先手先手に試合を押し進め、その後も徳山大学の川越の力投により両者同点のまま、ついに今大会初の延長戦へとつれ込んだ。

十回より徳山大学は川越から山田への好継投で以後、立教打線を押さえたが、二度の決勝点を挙げるチャンスにあと一本ヒットが続かず、迎えた十五回、ノーアウト一塁から田島のライト線二塁打と返球ミスの間に決勝点を奪われ惜しくもサヨナラ負けを喫し、三時間五十分の熱戦に幕が降ろされた。

試合後、柴村太監督は「投手は初めから継投していくつもりだった。川越の調子は決して良くなかったが、よく踏んばって九回まで投げてくれた。二回に一点、五回に三点をとったその裏にすぐ同点にされたのが悔まれる。負けはしたがみんなよくやってくれた。この敗戦はきっと来季につながると思う。次回は是非一勝をしたい」と選手の間をたえ、来季へむけて抱負を語ってくれた。

▽準々決勝
徳山大学

0 1 0 0 3 0 0 0 0 0
0 1 0 0 3 0 0 0 0 0

立教大学

0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
0 0 0 0 0 1 5 4
(延長十五回)

平成二年度クラブ活動おもな成績

ゴルフ部

- ・四国学生ゴルフ春・秋季一部リーグ戦優勝
- ・全日本学生ゴルフ王座決定戦ベスト八
- ・全日本学生ゴルフ連盟会長杯優勝
- ・中四国学生ゴルフ秋季一部校リーグ戦最優秀選手賞
- ・中四国学生ゴルフ王座決定戦優勝

サッカー部

- ・中四国学生ゴルフ春季一部校リーグ戦最優秀選手賞
- ・中四国学生ゴルフ王座決定戦優勝
- ・全日本学生ゴルフ連盟会長杯優勝
- ・中四国学生ゴルフ秋季一部校リーグ戦最優秀選手賞
- ・中四国学生ゴルフ王座決定戦優勝

硬式野球部

- ・中四国学生ゴルフ春季一部校リーグ戦最優秀選手賞
- ・中四国学生ゴルフ王座決定戦優勝
- ・全日本学生ゴルフ連盟会長杯優勝
- ・中四国学生ゴルフ秋季一部校リーグ戦最優秀選手賞
- ・中四国学生ゴルフ王座決定戦優勝

軟式野球部

- ・中四国学生ゴルフ春季一部校リーグ戦最優秀選手賞
- ・中四国学生ゴルフ王座決定戦優勝
- ・全日本学生ゴルフ連盟会長杯優勝
- ・中四国学生ゴルフ秋季一部校リーグ戦最優秀選手賞
- ・中四国学生ゴルフ王座決定戦優勝

柔道部

- ・中四国学生ゴルフ春季一部校リーグ戦最優秀選手賞
- ・中四国学生ゴルフ王座決定戦優勝
- ・全日本学生ゴルフ連盟会長杯優勝
- ・中四国学生ゴルフ秋季一部校リーグ戦最優秀選手賞
- ・中四国学生ゴルフ王座決定戦優勝

ラグビー部

- ・中四国学生ゴルフ春季一部校リーグ戦最優秀選手賞
- ・中四国学生ゴルフ王座決定戦優勝
- ・全日本学生ゴルフ連盟会長杯優勝
- ・中四国学生ゴルフ秋季一部校リーグ戦最優秀選手賞
- ・中四国学生ゴルフ王座決定戦優勝

陸上競技部

- ・中四国学生ゴルフ春季一部校リーグ戦最優秀選手賞
- ・中四国学生ゴルフ王座決定戦優勝
- ・全日本学生ゴルフ連盟会長杯優勝
- ・中四国学生ゴルフ秋季一部校リーグ戦最優秀選手賞
- ・中四国学生ゴルフ王座決定戦優勝

全日本大学対抗伝出場
山根 仁(三年)

・中四国学生陸上競技対抗選手権大会ハンマー投げ優勝

・中四国学生陸上競技選手権大会ハンマー投げ優勝

上村 章人(三年)

・中四国学生陸上競技選手権大会やり投げ優勝

鳴 也幸(四年)

・西日本レスリング選手権大会五十七級フリー優勝

高田和拓(二年)

・西日本レスリング選手権大会六十八級フリー優勝

・西日本レスリング選手権大会六十八級グレコ優勝

・西日本レスリング春季新人戦六十八級級優勝

末 雅次(四年)

・西日本レスリング選手権大会百三十級級優勝

・国民体育大会 五位

ボクシング部

・中国大学アマチュアボクシング選手権大会ウェルター級優勝

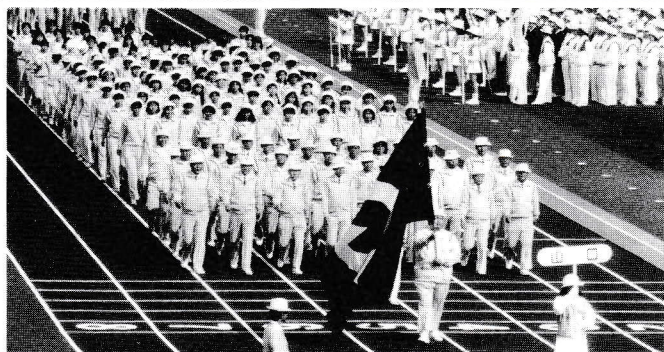
・中国大学ボクシング新人選手権大会ライトウェルター級優勝

野田 佳明(二年)

・中国大学ボクシング新人選手権大会ウェルター級優勝

水泳部

・中四国学生水泳選手権大会百メートル背泳優勝



第 2 回日米レスリング大会結果

クラス	カリフォルニア州 大学選抜チーム	勝 敗	徳山大学チーム
団 長	ジム ルート		八田 善徳
監 督	マイク ヴァデュゴ		三宅 剛
48 キロ	ショウン ドラー	○	山根 宣夫 (4 年)
52 キロ	オーランド モンテロ	○	林 秀樹 (4 年)
57 キロ	ブランド ケオスキー	○	嶋 也幸 (4 年)
57 キロ	ジュアン パディラ	○	宮下 武士 (4 年)
62 キロ	ジョージ モンテロ	○	工藤 誠之 (2 年)
68 キロ	ジェイソン ストルブ	○	高田 和拓 (2 年)
68 キロ	ルイ サルケド	○	渡部 誠 (3 年)
74 キロ	ジョン ピーブラー	○	新田 和則 (3 年)
82 キロ	ケヴィン アイバー	○	中田 浩司 (2 年)
100 キロ	キース スパトロ	○	林 健 (2 年)
100 キロ以上	ディーン ワズワース	○	末 雄二 (4 年)

徳山大学創立二十周年記念行事のひとつとして、日米親善レスリング大会が七月四日記念館で行われた。

今回で第九回目を迎えたこの大会は、昭和四十九年アメリカの選手を迎えてはじまり、五十四年から日本学生代表チーム（大東文化大、山梨学院大、徳山大）が隔年で遠征し、今日にいたっている。多数の観衆の中、熱戦が繰り広げられ、6-5で本学チームが勝った。この中で五十七キログ級で出場し

た嶋君は、国体で堂々3位の成績をおさめ、また百キログ級の末君は山口県選手団の旗手をつとめた。

八月には韓国遠征も敢行され、内外ともにめざましい活躍がみられる。

(写真下)
日米親善レスリング
レセプション
(写真左上)
国体開会式
入場行進で旗手を
つとめる末選手

国際スポーツ交流 レスリング部



'90 大学祭

第二十回ボブラ祭が十月二十六日、十一月二日から四日にかけて開催された。

今年のテーマは、"to be continued"。二十周年の今年をひとつの区切りとして、二十一回、二十二年と意義あるすばらしい大学祭として続いていくようにとの願いを込めて、ということであった。

メイン行事のひとつのリンダバールコンサートは徳大記念館に超満員の千四百名を集めてエネルギーあふれるステージが展開された。

他にも、クイズ、のど自慢、ミスコンなど、比較的オーソドックスな企画の中にも学生らしい真摯な情熱を感じることができた。それはラストのファイヤーストームを囲んで感極まっていた学生達の表情に象徴されていたようであった。

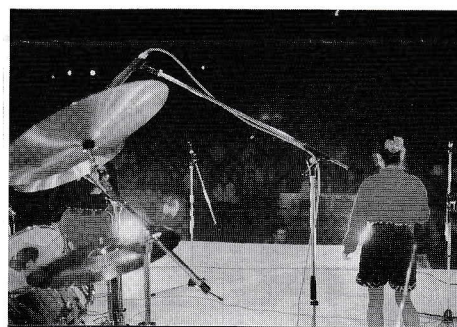


学生行事 レポート

萩 往 還

十一月一日、二日、恒例の強歩大会、萩往還踏破が行われた。午前八時山口瑠璃光寺をエイエイオーの掛け声によって学生六十一名職員四名の一行は出発した。当日はぬけるような青空のもと、絶好の日和となった。

昼食では初めて女子学生だけで作った豚汁が配られ、ひとときの休息に学生達もやさしい表情であった。また、各旧跡の説明についても、学生によって行われ、あ



らゆる面において学生の手作りによる行事という印象が残った。

午後六時三十分、約35キログの山道のコースを全員踏破、その中には足を引きずりながらも頑張った女子学生、下駄で歩いた者、四年間参加した者など、それぞれのドラマがあったようであった。いかにも、汗と涙の青春という言葉の似合う一日であった。



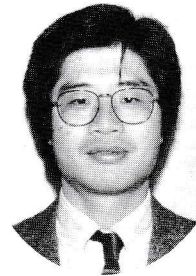
校友会役員改選 新役員紹介

校友会役員は二年に一度改選しておりますが、今年はその年にあたり改選がされましたので、新役員をご紹介します。

- 会 長 豊 岡 正 行
(一期 徳山市役所)
- 副 会 長 古 谷 幸 男
(七期 徳山市議会議員)
- 国 広 憲
(一期 中国アセチレン(株))
- 企画部長 藤 岡 正 史
(二期 徳山大学総合経済研究所)
- 組織強化部長 三 島 隆 史
(三期 徳山大学教務部教務課)
- 事業部長 井 上 基 義
(二期 井上保険サービス)
- 情宣部長 中 村 道 陽
(十一期 徳山大学学生部学生生活課)
- 事務局長 磯 村 泰 将
(四期 徳山市役所)
- 監 査 岡 浩 治
(八期 大正海上火災)
- 柴 村 太
(九期 徳山大学学生部学生主事室)

存在感のある集合体に

校友会会長 豊 岡 正 行(一期生)



を平成五年度に新設する計画で、既に構想はスタート。校友会もこれを支援していきたい。

再び会長を、との幹事会の御推挙により、微力ながら徳山大学の発展のために尽したいとお引き受けた。まずは校友会が「存在感のある集合体にならねば」と、組織強化を当面の課題とし、役員が一丸となって頑張る所存である。

去る十月二十日、徳山大学創立二十周年記念式典が盛大に挙行された。二十周年記念行事の一つ、建学の碑を寄贈するため役員数名と式典に参列したが、開学当初、我々の手でキャンパスに植栽したポプラの木の成長を目前にし、改めて二十年の歳月がしみじみと感じられた。背丈にも足りなかった苗木は学舎より高く、大木となり真っ直ぐ天に向っている。徳山大学も地域活性化が叫ばれている現在、産業経済の振興や教育文化の振興に不可欠な拠点となっている。また、その使命はますます大きくなっていく。

こうした期待にこたえるためにもと三好理事長、村田学長は、十八歳人口激減期を睨んだ新学部構想を打ち出された。中四国・九州地区では初めてと思われる情報学部

を平成五年度に新設する計画で、既に構想はスタート。校友会もこれを支援していきたい。

現在、卒業生は六千二百余名にも及ぶ。皆さんの各分野でのご活躍はご同慶の至りである。私の周囲にも企業や地域にあって、なくてはならぬ人材として頑張っている友人は多い。そのことが校友会の存在そのものであり、徳山大学の社会的評価を上げることになる。校友会は正に「大学との運命共同体」である。

冒頭の抱負に戻るが、校友会を難しく考える必要はない。卒業生相互の信頼関係があれば十分こと足りる。六千二百余名が有機的に結ばれ、その輪が広がればよい。私の勤める徳山市役所では、昨年二十数人が集って職域OB会を作った。西京銀行にも二十人の卒業生がいると聞き、是非OB会をと話したところである。地域支部は既に山口県支部・広島・関東で結成。関西支部を作ろうという兆しもあるという。また、クラブOB会も既に多く結成され、十月二十七日には合気道部OB会に磯村事務局長が出席した。

こうして母校愛に育まれて作られた輪が手を携えていけば、校友会は存在感ある集合体となる。こうした考えから期別代議員制を見直し、地域(支部)や職域、クラブOB会などの代表者で構成する評議会(仮称)で校友会を運営す

べきと、磯村事務局長、藤岡企画部長、三嶋組織強化部長らが機構改革に取り組んでいるところである。幸い三好理事長にもこの改革にご理解いただき、十一月より大学本館一階に事務所を開設した。皆さんの近くでOB会結成の動きがあれば、何かしらお手伝いできるので、ぜひ朗報をお知らせ願いたい。

私学の経営は寄付行為によるところが大きい。母校のために校友会が寄与、貢献できることは多い。これから徳山大学の経営にも直接参画すべく、校友会代表の理事會加入を近い目標とし、徳山大学の将来を担っていききたい。

最後に教授会対立抗争に触れておきたい。事件に対し皆さんから多くの声が寄せられた。恩師を心配する声に始まり、事件を憂い、大学の将来を危ぶむ意見など、すべてが卒業生の純粋な心情を伝えるものばかりであった。学園紛争のない大学を創設された徳山大学にあって、誠に遺憾なこと。これら皆さんの声を集約し、和解と従前どおりの教授会の運営をと、三好理事長、村田学長に申し入れてきた。さらに「和解なくして新学部構想はない」とも伝え、三年越しの紛争はようやく事実上の解決をみたところである。

二十周年はあまたの辛苦をなめ幾多の困難を克服して迎えた。意気軒高たつポプラの木に負けじと徳山大学の隆盛を願ひ、その将来を担うべく校友会は新たな一歩を踏み出したい。今後とも同窓生の皆さんや関係各位のご支援、ご鞭撻を衷心よりお願いしたい。

ご挨拶

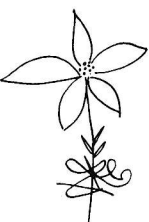
校友会副会長 古 谷 幸 男(七期生)



れたという事を喜んでおるところであります。

さて、校友会自体の事でありますが、会長の提言もあり、幹事会で組織の見直し、事務職員の増員、校友会室の確保は大学の御協力を頂き、ほぼ成し得ております。まだ二十年という若い歴史の大学ではあります。六千余名の卒業生を出し、これだけの会員を有する校友会としては、いろんな点で見直しをしていく時期が来たと言えるのではないのでしょうか。私が、学生時代より望んでおりました学部増設についても、その時期が来ており、大学側でも準備を進めておられるところでもあります。校友会も大学と運命共同体として頑張っていかなければならないし、地域、職域など、徳山の卒業生の連帯意識をより深めていく事が、後輩諸氏の励みにもなると思います。そして、その事が歴史を築いていく大きな役割になっていくと考えます。私も、校友会はもちろんです。大学の一層の発展の一助となる様に、微力ですが努力して参りますので、各位のご協力をよろしくお願い申し上げます。OB諸氏のますますのご活躍をお祈り申し上げます。御挨拶と致します。

今度、幹事会において副会長にご推挙頂きお引受け致すことになりました。昭和六三年に発足した山口県東部支部の支部長として、母校のおひざもと徳山に在任しておりますし、今後兼任で活動という事になるわけで、微力ではありますが、会長の手助けをしながらい、全体的に取り組んでいくつもりです。



徳山大学情報学部 新設の構想について

総合大学への第一歩として新学部設置のことが言われて久しい。大学の発展の上でも是非実現させてほしいものである。このことについて新学部設立準備室を訪問し、お話を伺ったので、要旨を報告します。

三、構想の概要について

- (1) 名 称
情報学部情報学科（仮称）
 - (2) 入学定員
二百名（完成年次八百名）
 - (3) 修業年限
四年
 - (4) 経 費
十数億円
- 四、カリキュラムの特色について

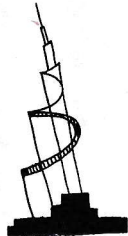
周知のとおり昭和四十六年、徳山大学経済学部経済学科が創設され、その後昭和五十一年には経営学科の増設、昭和六十二年には徳山女子短期大学経営情報学科が設立された。ここで本学は、創立二十周年を契機にさらなる発展をめざすと同時に、社会の要請に応え、地域経済、文化の発展向上に貢献するため情報学部の設置を考えた。

二、情報学部設置の理由について

一般教育段階から、基礎的な情報教育をとり入れる。専門教育科目は、情報処理技術と社会諸科学が相互に補完し合う構成とする。社会諸科学は問題解決の技法に重点を置き、従来の経済学、経営学、法学等の枠組を超えたものとする。コンピュータを活用し、かつ社会環境を分析・把握することができ

近年、情報化の進展は著しく、情報化の波は社会構造の変化、さらには市民生活まで変動を及ぼしている。その要となる情報関係人材の要請については大学に高い期待が寄せられているところである。

情報関係学部は、山口県内は勿論のこと、中・四国・九州地区においても開設されておらず、本学がその一翼を担うことは、非常に意



開学20周年を契機に 校友会組織の充実を目指して

事務局長 磯村 泰 将（四期生）

○はじめに

開学20年、我が徳山大学もようやく成人式を迎えました。地方の時代にふさわしく、豊かな自然に恵まれ、すばらしい環境の中で、教育文化、スポーツ両面において、全国レベルに達し、着実に発展する母校を見るにつけ、一卒業生として、誠に喜ばしく思っています。

4. 事業部（特別会計）
① 学生寮の経営 ② 校友会喫茶部
以上が主な活動内容ですが、これらについては継続していく方針です。

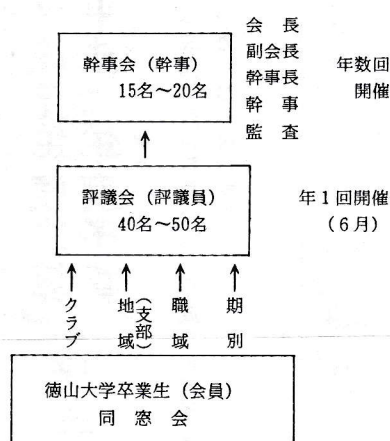
○将来展望について
校友会の将来展望として、今年度中に、組織の見直しにともなう規約改正等を図り、今後は、各県において支部を結成し、就職、入学等に関する情報収集等、校友会員の地域モニター制度を検討し、人的・物的両面において大学を支援していこうと考えています。また、同学20周年記念事業として、学内に建学の碑を建立寄贈いたしました。これらは、単年度予算内で執行できるものですが、将来的には、広く全会員の寄付と、積立基金とを合わせた、大学・校友会にとって有効活用できる施設の建設に向けて努力したいと思えます。

③ 卒業生記念品 ② 校友会文庫
③ 資産運用について
2. 情宣部
① 機関誌の発行 ② 広報活動
3. 組織強化部
① 各県支部の設立 ② 学生団体助成 ③ クラブOB会の助成

○事業内容について
校友会は、専門部として、企画部、情宣部、組織強化部、事業部の4つの部会を持ち、現在次のような活動を行っています。
1. 企画部
① 卒業生記念品 ② 校友会文庫
③ 資産運用について
2. 情宣部
① 機関誌の発行 ② 広報活動
3. 組織強化部
① 各県支部の設立 ② 学生団体助成 ③ クラブOB会の助成

機構の見直しについては、校友会に広く多くの意見を汲み上げるため、関係各団体から評議員を選出し、その中から幹事を選出する方向で進めています。

新機構図



写真右
全国大会出場を祝して商店街より横断幕が出された
(徳山市銀南街)

写真左
すくすくと成長したポプラ

快挙国際カクテルコンペティション優勝!!

第五期卒業 森 康 成さん(愛媛県伊予三島市在住)



平成二年十一月二十一日付け毎日新聞二面の「ひと」の欄に次のような記事が掲載された。

三年に一度、各国のバー経営者、バーテンダーたちが集う国際バーテンダー協会(IBC・A)主催の世界大会。今年はメキシコ市のホテルで今月上旬の五日間開かれ、三十三カ国の六百人が連日連夜、飲み、語り合い、踊った。そのメインイベントは各国のバーテンダーが五分の制限時間でカクテルづくりの技と味を競う国際カクテルコンペティション(ICC)。日本からも食前酒、食後酒、ロングドリンクスの各部門に一人ずつ三人が出場した。森さんは二十七カ国二十七選手が競った食前酒部門で技術13点(30点満点)、味85点(100点満点)、合計98点の最高点を得た。十九回を数えるICCで日本代表が優勝したのははじめてという。

世界一の森さんの創

「マンハッタン」

TEL〇八九六―二二二―三八〇七

平成2年度予算

収入の部		項目	予算額	項目	予算額
前期繰越金	2,246,458	前期繰越金	2,246,458		
会費	8,310,000	第17期生入会金	2,750,000		
		第17期生会費	5,500,000		
		追徴会費	30,000		
		推薦会費	30,000		
雑収入	270,000	雑収入	250,000		
		雑受利息	20,000		
計	10,826,458	計	10,826,458		

支出の部		項目	予算額	項目	予算額
会務運営費	3,821,000	備品費	50,000	費	400,000
		通信費	850,000	費	50,000
		通託手数料	50,000	費	250,000
		事務外市会費	350,000	費	50,000
		渉慶諸交旅記人	1,000	費	100,000
		交旅記人	500,000	費	616,000
		交旅記人	604,000	費	232,000
部費	1,734,000	企画部費	452,000	費	1,050,000
基金	4,500,000	事業積立基金	3,000,000	費	1,500,000
予備費	771,458	予備費	771,458	費	
計	10,826,458	計	10,826,458		

平成元年度決算

収入の部		項目	予算額	決算額
前期繰越金	2,540,153	前期繰越金	2,540,153	
会費	6,960,000	第16期生入会金	6,960,000	
		第16期生会費	6,900,000	
		追徴会費	30,000	
		推薦会費	30,000	
特別会計繰入金	0	特別会計繰入金	0	
雑収入	201,000	雑収入	204,278	
		雑受利息	153,004	
		事業積立基金取崩し	51,274	
計	9,701,153	計	9,509,431	

支出の部		項目	予算額	決算額
会務運営費	3,551,000	備品費	50,000	
		通信費	400,000	
		通託手数料	750,000	
		事務外市会費	50,000	
		渉慶諸交旅記人	300,000	
		交旅記人	250,000	
		交旅記人	50,000	
		交旅記人	1,000	
		交旅記人	100,000	
		交旅記人	500,000	
		交旅記人	500,000	
		交旅記人	600,000	
部費	1,923,000	企画部費	924,813	
		企画部費	421,000	
		企画部費	452,000	
		企画部費	1,050,000	
基金	3,800,000	事業積立基金	3,800,000	
		事業積立基金	3,300,000	
		事業積立基金	500,000	
予備費	427,153	予備費	400,000	
繰越金	0	繰越金	2,245,458	
計	9,701,153	計	9,509,431	

平成元年度決算 平成二年度予算 報告

平成元年度決算並びに、平成二年度予算のご報告を左記のとおり致します。

支部連絡先

(本部)

会長 豊岡 正行 (一期)

〒七四五

徳山市岡田町九一三五

コーポ岡二〇一号

TEL (〇八三四) 二二一七四一四三

(山口府東支部)

支部長 古谷 幸男 (七期)

〒七四五〇五

徳山市中須南一一二四

TEL (〇八三四) 八九一〇三〇三

(広島支部)

支部長 長谷川 洋

〒七三〇

広島市西区上天満町二一

一六〇五〇四

TEL (〇八二二) 二九四一五二一七

(関東支部)

支部長代行 中村 厚彦 (二期)

〒一〇四

東京都品川区東品川三丁目十六

B 東品川ハイツ二〇三三

TEL (〇三) 四七四一八三四七

編集後記

今年も年の瀬となりまして、OB各位におかれましては大変お忙しい頃と思います。大学の本館の一階に校友会のための事務室を設けることができました。大学に対して、また、校友会に対していろいろなお考えをお持ちの方がいらっしゃると思います。どうか、一度お訪ねいただいでご意見をお聞かせ下さい。最後にになりましたが、今回校友会誌を作成するにあたってご協力いただきました皆様に深甚なる感謝を申し上げます。